

医療最前線

麻酔・生体管理室



教授 大井 久美子

痛みへの挑戦

※1

う蝕や歯周病などの歯科治療の際には通常、局所麻酔薬を使用し、痛みの緩和に努めています。しかし、歯科治療に強い恐怖心を持つ患者(歯科治療恐怖症)や、障害を持つ患者(精神発達遅滞、脳性麻痺、自閉症、ダウン症、てんかん等)の中には、通常の歯科治療が困難なケースも多くみられます。そのような場合に私達は、全身麻酔や精神鎮静法(写真2)という方法を用いて治療を行っています。このような方法で治療を行う際には、患者の循環や呼吸などの体の状態(バイタルサイン)を絶えずチェックしながら、全身の安全管理に努めています。

一方、全身麻酔下での口腔外科手術の場合も、手術の部位が気道の入り口であるため、術前、術中はもちろんのこと、術後にも細心の注意を払って気道及び全身状態の安全管理を行っています。(写真1)

歯科で扱う痛みの中には、う蝕や歯周病など歯に原因

を有する急性の痛みだけでなく、神経痛や舌痛症、頭痛や顎関節症とよばれる慢性の痛みがあります。頭痛(緊張型)や顎関節症の原因としてこれまで、かみ合わせや顎関節の異常が考えられていましたが、最近では、ストレスに伴う日中のくいしばりや夜間の歯ぎしり(ブラキシズム)、不自然な姿勢、たばこ・アルコール・カフェインなどの取り過ぎによって生じる睡眠パターンの乱れや睡眠不足が原因の生活習慣病であると考えられています。そのため、生活習慣の見直しや、患部をマッサージしたり、温かいタオルを当てて血液の流れをよくしてあげるといった患者自身によるセルフケアが大切になってきます。また、ヒトの体には本来、痛みを抑える働き(疼痛抑制システム)が備わっており、この働きを高めてあげる目的で、当診療科のペインクリニックでは、お灸や鍼、漢方薬をはじめとする東洋医学を取り入れて、慢性の痛みの緩和に努めています。

※1 う蝕・虫歯のこと



(写真1)全身麻酔法
手術室における口腔外科手術時の全身麻酔風景



(写真2)精神鎮静法
少量の静脈麻酔薬を投与して痛みや不安を和らげます